

風に吹かれて

☒45☒

幼い頃を江の川沿いの小さな村で過ごした。6月から7月の雨期に入ると、何回かバケツの水をひっくり返したような大雨が降り、その雨が昼夜続くと、江の川の水が恐ろしいほど増水し、支流の小川を逆流し、集落の田畑に入り込み、村一面が大きな湖になった。

交った。私の住んでいた家は高台だったのでただ驚いて眺めていただけだったが、低い場所にあった家は毎年毎年、水の引いた後が大変だった。

自然の猛威は人の知恵でも立ち向かえないこともある。20年ほど前、松江市八雲町日吉の水の偉人、周藤弥兵衛翁の話を書かないかとお誘いがあった。地方でやる本作りの話は予算の規模や契約事項がはっきりせず、後悔

弥兵衛翁しのび「悠久の河」



周藤弥兵衛がノミとツチで岩盤を切り開いた
—松江市八雲町日吉で

することが多かったの
で断るつもりだった。
しかし、日吉の意宇
川の現場に行き、弥兵
衛翁がたった一人で40
数年、ノミとツチを使
い固い岩盤を削り続け
たという現場に立った
時、ぜひ書きたいと思
った。霊山と言われた
場所の岩盤を削ること
が、その時代どんな困
難を伴ったのか。今で
も川底や周辺にノミの
跡が残る。

250年以上も前の
ことで資料も少なく史
実を元にした創作の物
語だったが、大庄屋だ
った弥兵衛翁が自分の
全財産をかけて、災害
の不安の無い村にと全
ての人生を注ぎ込んだ
話は衝撃だった。
あれから20年。東日
本大震災の頃から、村
人の財産や生命を守る
ために一生をかけた弥
兵衛翁のリーダーとし
ての生き方は、復興を
願う被災地の方々を元
気づけるのではないか
と思え、新たな原稿を
書き続けた。
幸い、7月より全国
紙の業界新聞や雑誌に
連載が決まった。「悠
久の河」と題する弥兵
衛翁の物語が全国の業
界人の読者と一人でも
多く出会いますように
と願っている。

8月1日の水の日、
八雲町意宇川沿いの日
吉親水公園そばの空き
地には、弥兵衛翁の大
きな像が、地元の顕彰
会によって仮設置され
るそうだ。
「悠久の河」が出版
されるのは来年早々の
予定。
【作家、村尾靖子】